

PET検査を用いた画像診断技術



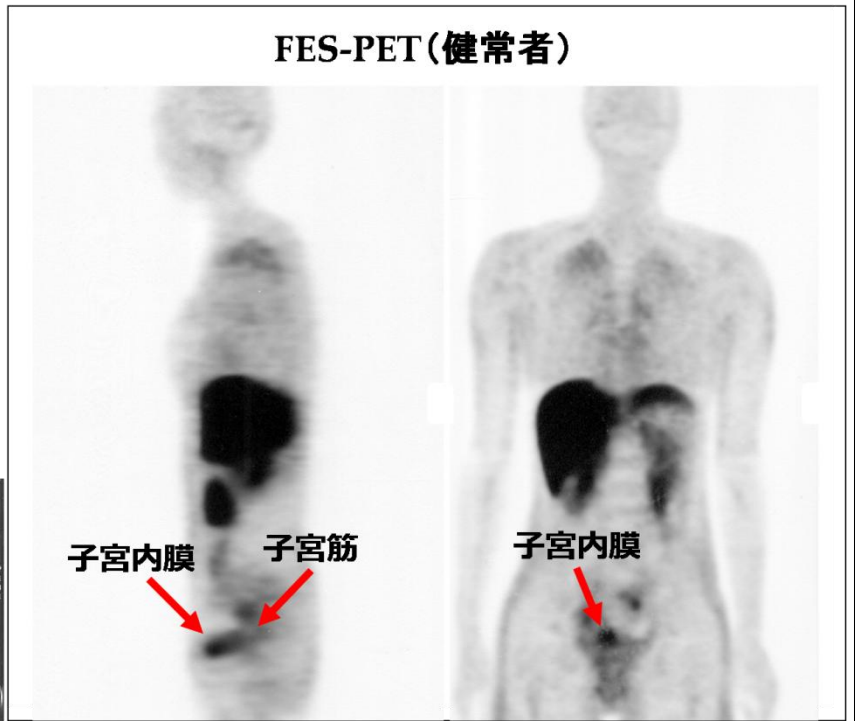
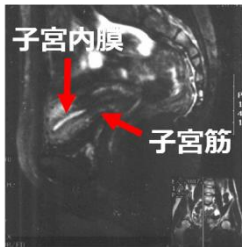
子宮ガン・子宮筋腫の診断

(1) シーズ概要

女性ホルモンは、婦人科腫瘍の女性ホルモンレセプターを介して、婦人科腫瘍の発生・増殖に強く関与している。従って、治療を行う際その存在の有無は、非常に重要になる。これまでは、女性ホルモンレセプターがどの程度存在するかは、麻酔をかけて患者さんの肉体から一部採取しなければわからなかったが、その存在を非侵襲的に画像で診断できるようになった。

(2) これまでの研究成果

1. 子宮ガンのホルモン療法を実施するとき、その都度患者さんに麻酔をかけて検体を採取したうえで検査しなくても、治療効果の判定ができることがわかりました。
2. 画像診断だけで、子宮ガンの存在があるかどうかを見分けることができました。
3. 今まで、難しいといわれていた、子宮筋腫と子宮肉腫の鑑別ができるようになりました。



(3) 新規性・優位性、適用分野

エストロゲンレセプター検索画像診断システムは、福井大学高エネルギー研究所で作成されました。婦人科腫瘍の診断や治療効果判定に用いられるのは、当科が初めてです。

今まで、麻酔をして一部患者さんから検体を採取して初めて検査ができたのが、CTをとるだけでわかるようになりました。

【適用分野】

1. 子宮ガンの診断
2. 子宮筋腫と子宮肉腫の鑑別診断
3. 子宮ガン・子宮筋腫のホルモン療法の効果判定

特許出願: なし

関係論文: Radiology 2008 Gynecologic Oncology 2007

関係企業等: なし